みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

スリランカにおける文化遺産被害状況調査 (文化遺産レポート)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 末森, 薫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00005837

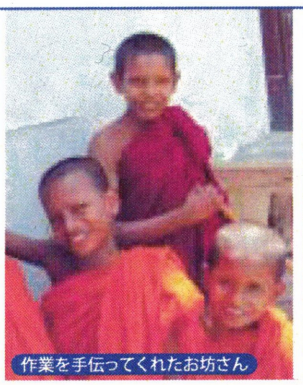
《文化遺産レポート》

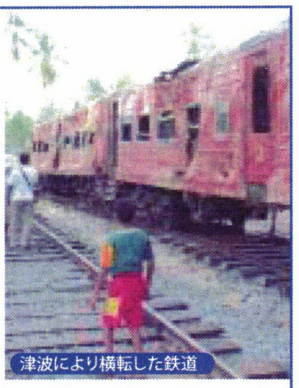
スリランカにおける文化遺産被害状況調査

◎末森　薫《筑波大学大学院世界遺産専攻》

マータラ旧市街内　被災した幼稚園

1780の年号を持つマータラフォートの門


作業を手伝ってくれたお坊さん


津波により横転した鉄道

インド洋津波

周知のように、二〇〇四年一二月二六日にスマトラ沖で発生した地震と大津波は、南アジア・東南アジアを中心としたインド洋沿岸地域へ甚大な被害を与えた。文化遺産も例外でなく大きな損害を被った。

津波発生から約三ヶ月が経過して、緊急事態への初動対応の段階がひとまず収束をみた二〇〇五年三月後半に、文部科学省科学研究費補助金「インド洋津波によるスリランカの文化遺産被害状況調査と復興ガイドラインの作成」（研究代表者：日高健一郎教授・筑波大学世界遺産専攻）によって、スリランカ南部における文化遺産の緊急被災調査がスリランカ・イコモスおよび現地マータラのルフナ大学を中心とするスリランカチームとの共同で実施された。本稿は、二週間の調査活動へ参加する機会を得た筆者による概要報告と感想である。

調査を開始した三月一六日の時点では、人道支援を中心とする初動緊急援助は一段落して、それに続く市街や集落の復興再建作業が進められていた。しかし、住居を失った人々のテントやバラックでの生活も多くみられ、内陸へ入った地域においても、屋根や壁の破壊された家屋が放置されていた。一〇〇〇人以上の命を奪ったという鉄道横転事故現場では、巨大な力で倒され、曲げられた車輌がレールの上に置かれ、多くの人々が集まっていた。この鉄道車輌は、悲惨な津波被害の記憶を刻む現物として保存されるという。

マータラ・フォート

今回の調査研究では、世界遺産に登録されているゴール市を含むスリランカ南部沿岸一体を対象としたが、その中でもマータラが調査の中心に選定された。マータラはスリランカ最南端の海岸まで五キロメートル、中心都市コロンボからは一六〇キロメートルの距離にある。ここの歴史的街区は、オランダ時代に築かれた堡塁（マータラ・フォート）の内部にあるが、河口と海に囲まれた岬状の地形に位置するため津波の直撃をうけ、堡塁の大部分は失われてしまった。

調査研究は、旧市街地の建造物、街並みの被害状況と、その復興に際しての課題を明らかにすることを目的に実施された。インド洋津波被災地域において、このような活動が行われたのは初めてであり、日本・スリランカの合同チームは建築班、街並み班、被災調査班、GIS・GPS班の四つに分かれ調査をおこなった。連日の炎天下の中での作業は容易ではなかったが、現地の住民の方々の協力もあり、共同調査は順調に進んだ。

悉皆調査の結果、堡塁内部には一八世紀後半から二〇世紀前半に立てられた歴史的建造物、約五〇棟が現存しており、そのほとんどが現在も公共施設や住居として使用されていること、海側に位置する建造物の被害が特に大きく、多くが全壊または半壊の状態であること、建造物の壁等に残る水位線の跡から、マータラ歴史的街区では二メートルの高さに及ぶ浸水があったことなどが判明した。

古地図をもとにした微地形の踏査では、マータラ歴史的街区には植民地時代より象の輸出の中継地として栄えていた当時の痕跡が残存しており、「象の池」や「象の丘」といった象の貿易に関わる形跡が確認されるという新たな発見もあった。この発見は『象輸出の中継地としてのマータラ』という新たな歴史的価値、文化遺産的価値を与える可能性を包含している。従来、マータラ歴史的街区では発掘調査はなされていないが、考古学的方法による調査をおこなえば、新たな歴史情報をもたらす可能性が

対岸から望んだマータラ旧市街

マータラ旧市街被災状況

半壊した仏教学校ピリヴェーナ（正面）

テント避難所

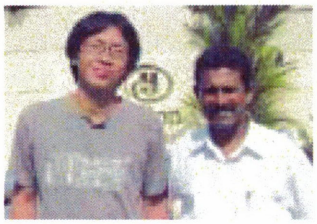
報告会風景

あろう。

調査に際して、実測やＧＩＳ測量、聞き取り調査、被災状況調査を、現地学生と協力しておこなったことは、建築を専門的に学ぶ機会がない学生への教育の場としての役割も果たしたと思われる。

復興に向けて

調査最終日には、スリランカ政府国土都市計画大臣を初め、スリランカ・イコモス国内委員会代表、ルフナ大学、モラトゥワ大学などから関係者を招いて、公開調査報告会が開催された。この報告会では、マータラ歴史的街区における被災状況、歴史的建築の評価、微地形の解析、街並み調査結果の分析、歴史的建築物の破壊状況など、多くの成果や問題点が共同調査・研究の成果として報告された。同時に、日本チームの専門家により、日本の文化財行政、ＧＩＳと文化遺産、奥尻島での津波被災後の対策、阪神大震災における文化遺産の保護をテーマとした発表が行われた。パネルディスカッションでは、今後の文化遺産を含めた被災復興について、日本・スリランカ両国の専門家で意見が交わされ、両国における長期的な共同作業や人的交流についての提案がなされた。


ACCU 集団研修 2004
参加者のニランと筆者